

資料1-2  
男女共同参画及び多様な  
性の尊重に関する審議会  
令和8年1月30日

市民

## 1. 用語や制度の認知度（問1）

### ○認知度が高い用語

- ・ジェンダー（内容も含めて知っている：68.8%）
- ・SDGs（内容も含めて知っている：62.8%）
- ・LGBTQ+（内容も含めて知っている：53.8%）

### ○認知度が低い用語・制度

- ・SOGI（内容も含めて知っている：5.5%、聞いたこともない：78.2%）
- ・アウティング（内容も含めて知っている：13.5%、聞いたこともない：72.1%）
- ・ジェンダー・ギャップ指数  
（内容も含めて知っている：18.4%、聞いたこともない：41.7%）
- ・パートナーシップ宣誓証明制度  
（内容も含めて知っている：29.5%、聞いたこともない：33.7%）

## 2. 男女共同参画（社会）に関する考え方（問2～）

令和3年度調査と令和7年度調査で設問形式の違いはあるものの、男女共同参画はまだ十分に進んでおらず、男性優位の状況が続いているという市民の認識は、大きく変わっていないと見られる。

### ○男性の方が優遇されていると感じる分野

- ・「政治の場」で男性が優遇されていると回答した割合が最も高く 77.0%  
（「男性の方が優遇」35.7%+「どちらかといえば男性が優遇」41.3%）
- ・「社会全体」でも 68.9%（17.4%+51.5%）が男性優遇と回答。
- ・「職場で」では 49.5%（12.9%+36.6%）、「家庭生活」では 45.2%（12.1%+33.1%）が男性優遇と回答。

### ○平等であると感じる分野

- ・「学校教育の場」（教育を受ける機会も含めて）では 60.7%が「平等である」と回答し、最も高い割合を示した。

### ○男女共同参画社会の実現に向けて、最も重要な課題（上位）

- ・「性別による固定的な役割分担の考え方の解消」：27.8%
- ・「仕事と家庭の両立支援を進める」：26.7%

## 3. 生活の中での男女共同参画（問4～）

- ・「男性は外で仕事をし、女性は家庭を守るべきである」に対し、69.6%（どちらかといえば反対 34.7%+反対 34.9%）が反対。  
（令和3年度：82.1%が反対 そう思わない 51.8%、どちらかといえばそう思わない 30.3%）
- ・「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきである」に対し、58.4%（どちらかといえば反対 27.6%+反対 30.8%）が反対。

#### 4. 女性活躍推進（問6～）

##### ○女性が職業を持つことについての考え

- ・「生涯にわたり、職業をもち続けるのがよい」という回答が最も多く49.2%。
- ・次いで「子どもが生まれたら仕事を辞め、子どもが成長した後再び職業をもつのがよい」が37.7%。
- ・女性が職業を持たない方がよいという意見はごく少数：0.1%

##### ○女性が長く働き続けるために特に重要だと思うこと（上位）

- ・「柔軟な勤務形態の導入（フレックスタイム制、在宅勤務等）」：56.0%
- ・「育児・介護休業制度の充実」：51.6%
- ・「男女間の賃金・昇進等の格差解消」：38.4%

#### 5. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）（問9～）

##### ○仕事と生活を両立できるようにするための公的な取り組みとして重要なこと（上位）

- ・「出産や育児、介護等に関するサービスの充実」：28.9%
- ・「両立支援の制度強化」：28.7%
- ・「社会全体に対する意識づくり」：17.2%

#### 6. 男性の育児や介護の参画（問11～）

令和3年度：男性が育児休業や介護休業を「積極的に取るべき」：55.2%

令和7年度：この割合は61.7%に増加しており、男性の育児・介護への積極的な参画を望む意識が強まっている。

##### ○男性の育児・介護休暇取得への高い賛成

- ・男性が育児や介護のために休暇を取ることに、95.6%が賛成。  
（積極的に取るべき61.7%+どちらかといえば、取る方がよい33.9%）

##### ○男性が育児・介護休業を取らない主な要因（上位）

- ・職場の理解が得られないから：19.8%
- ・人手不足で代替りの人がいないから：16.2%
- ・休業中は収入が少なくなり、家計を維持できないから：14.9%

#### 7. 健康課題（問14～）

##### ○女性の健康課題に対する取り組みで、特に重要だと思う配慮・支援（上位）

- ・「社員全体の理解」：20.0%
- ・「出産・子育てと仕事の両立支援」：18.8%
- ・「上司の理解」：13.9%

## 8. 市の相談支援窓口について（問16～）

- 市の相談事業に関する認知度（内容も含めて知っている＋聞いたことはある）は、特に専門的な窓口で低い傾向
  - ・「市民相談室」の認知度：71.2%
  - ・「女性のためのDV相談」の認知度：52.0%
  - ・「ぼっとかん（地域の総合窓口相談）」：43.9%
  - ・「よこすかLGBTs相談」：29.4%
  - ・「デュオよこすか『女性のための相談室』」：26.9%

## 9. 性別等に基づく人権侵害（DV、ハラスメント）（問17～）

### ○セクシュアル・ハラスメントの経験

- ・職場や学校、地域などでセクシュアル・ハラスメントを「受けたことがある」と回答した人：22.6%

### ○セクシュアル・ハラスメントの見聞き

- ・身の回りでセクシュアル・ハラスメントの場면을「見たり、被害を聞いたりしたことがある」：41.1%

### ○DV相談機関の認知度

- ・「警察」が最もよく知られており、82.2%が知っていると回答。
- ・次いで「市役所」：32.9%
- ・専門機関である「配偶者暴力相談支援センター」の認知度：13.4%
- ・「相談できる機関を知らない」：11.5%

## 10. 多様な性・性的マイノリティ（LGBTQ+）（問23～）

### ○自身の性的指向・性自認に関する悩み

- ・「性的指向に悩んだことがある」：2.6%、「性自認に悩んだことがある」：1.8%
- ・「悩んだことはない」：88.5%。

### ○性的指向・性自認に関する相談を受けた経験

- ・身の回り的人から「相談を受けたことがある」人は10.4%。

### ○身近なLGBTQ+当事者の存在

- ・「友人や知人にいる」が最も多く16.7%。
- ・「家族や親族にいる」は1.9%、「学校や職場にいる」は3.6%。
- ・「周囲にはいない（知らない）」と回答した人が70.4%

## 11. 横須賀市が進める取り組み（問27）

ワーク・ライフ・バランス、女性活躍推進関連が上位

- ・多様で柔軟な働き方や仕事と育児・介護との両立支援：50.7%
- ・子育てと両立できる環境整備（保育所、放課後の居場所等）：45.6%
- ・出産や子育てで離職した女性の再就職支援：33.0%